

1 肩甲難産で避けるべき処置はどれか。

- a 子宮底圧出法
- b McRoberts体位
- c 恥骨結合上部の圧迫
- d 後在上肢解出
- e 帝王切開

2 胎児水腫となる可能性が高いウイルス感染はどれか。

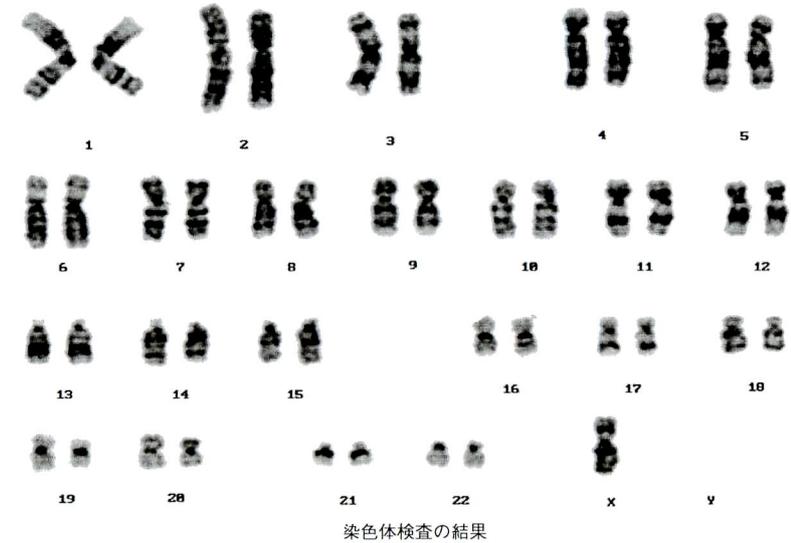
- a 風疹
- b ヘルペス
- c ムンプス
- d ヒトパルボB19
- e ヒトパピローマ

3 常染色体劣性遺伝形式について誤っているのはどれか。

- a 近親婚の確率が高い。
- b 分離比は原則的に50%である。
- c 両親は一般的に保因者である。
- d 性別に関係なく両性にみられる。
- e 変異遺伝子のホモ接合体が発病する。

4 染色体検査の結果を示す。この患者でみられるのはどれか。

- a 外反肘
- b 両眼隔離
- c 口蓋裂
- d 正常卵巣
- e 揺り椅子状足底



5 レム (REM) 睡眠行動障害で、レム睡眠中に異常がみられるのはどれか。

- a 脳波
- b 肺活量
- c 心電図
- d 眼球運動
- e 表面筋電図

6 アトピー性皮膚炎の合併症として一般的でないのはどれか。

- a 疥癬
- b 白内障
- c 伝染性軟属腫
- d 伝染性膿痂疹
- e カボジ水痘様発疹症

7 糖尿病網膜症の前増殖性変化はどれか。2つ選べ。

- a 硬性白斑
- b 軟性白斑
- c 毛細血管瘤
- d 硝子体出血
- e 静脈の数珠状拡張

8 口内炎の原因となるウイルスはどれか。2つ選べ。

- a EBウイルス
- b ムンプスウイルス
- c 単純ヘルペスウイルス
- d インフルエンザウイルス
- e コクサッキーウイルス

9 気管支動脈塞栓術でカテーテルをすすめる順番として正しいのはどれか。

- a 大腿動脈——総腸骨動脈——下行大動脈——気管支動脈
- b 大腿静脈——下大静脈——肺動脈——気管支動脈
- c 橈骨動脈——鎖骨下動脈——肺動脈——気管支動脈
- d 大腿静脈——奇静脈——肺動脈——気管支動脈
- e 大腿静脈——門脈——下大静脈——気管支動脈

10 自然気胸の脱気療法の際、急速に脱気を行った場合に起こりえる障害はどれか。2つ選べ。

- a 肺水腫
- b ショック
- c 皮下気腫
- d 患側肺の過膨脹
- e 縦隔の患側への移動

11 慢性閉塞性肺疾患（COPD）でみられないのはどれか。

- a 口すぼめ呼吸
- b 呼吸音の減弱
- c 肺肝境界の上昇
- d 下部胸郭の奇異性運動
- e 呼吸補助筋を使った呼吸

12 WPW症候群について誤っているのはどれか。

- a 先天性の疾患である。
- b 房室の電気的短絡により、心室が早期興奮する。
- c 発作性上室頻拍の原因となる。
- d ジギタリスで副伝導路の伝導が抑制される。
- e 心房細動の合併により偽性心室頻拍を呈する。

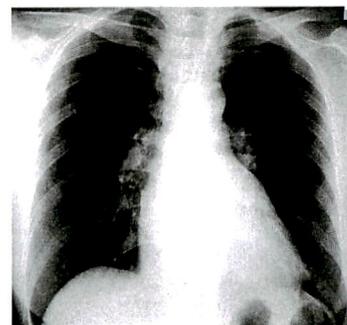
13 Fallot四徴症について正しいのはどれか。

- a 全先天性心疾患の中で最も頻度が多い。
- b 通常出生直後からチアノーゼを認める。
- c 無酸素発作予防に β 受容体刺激薬が有効である。
- d 姑息的手術にはBlalock-Taussig短絡手術が選択される。
- e 心臓カテーテル検査において右室造影を行うと肺動脈のみ造影される。

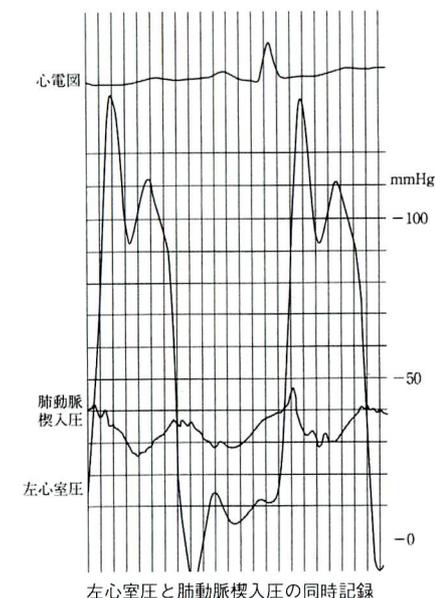
14 48歳の男性。胸部エックス線写真および左心室圧と肺動脈楔入圧の同時記録を示す。

診断はどれか。

- a 大動脈弁狭窄症
- b 僧帽弁狭窄症
- c 肥大型心筋症
- d 収縮性心外膜炎
- e 原発性肺高血圧症



胸部エックス線写真



左心室圧と肺動脈楔入圧の同時記録

- 15 心タンポナーデについて正しいのはどれか。
- 心嚢液の貯留量が病態の発症や重症度を規定する。
 - 右室よりも左室が先に拡張早期の虚脱所見を呈する。
 - 中心静脈圧が上昇する。
 - 収縮期血圧が呼気時に低下する。
 - 右心不全徴候に対しては、利尿薬にて経過を観察する。
- 16 閉塞性動脈硬化症（ASO）による重症虚血下肢で認められる所見として誤っているのはどれか。
- 皮膚潰瘍
 - 安静時疼痛
 - 体位による症状変動
 - 足関節収縮期血圧=30mmHg
 - 足関節-上腕動脈血圧比（ABI）=0.3
- 17 正しいのはどれか。
- 十二指腸潰瘍は低酸を呈する。
 - 急性胃粘膜病変は再発しやすい。
 - 胃底腺ポリープは高率に癌化する。
 - 胃潰瘍は十二指腸潰瘍よりも穿孔しやすい。
 - Helicobacter pylori* 除菌後判定には尿素呼気試験が有用である。
- 18 胃全摘出術と幽門側胃切除術で処理（切離）が異なる血管はどれか。
- 左胃動脈
 - 右胃動脈
 - 右胃大網動脈
 - 短胃動脈
 - 胃十二指腸動脈
- 19 潰瘍性大腸炎について正しいのはどれか。
- 高齢者に多い。
 - 常染色体優性遺伝である。
 - 縦走潰瘍や数石像がみられる。
 - 治療は栄養療法が第一選択になる。
 - 長期経過例では癌化の危険性がある。
- 20 健常人の貯蔵鉄の総量に近いのはどれか。
- 1 mg
 - 10 mg
 - 100 mg
 - 1 g
 - 10 g
- 21 進行期Hodgkinリンパ腫の予後予測因子はどれか。3つ選べ。
- 性別
 - 白血球数
 - 血清LDH
 - 血清アルブミン
 - performance status（PS）
- 22 プロトロンビン時間および活性化部分トロンボプラスチン時間の両方が延長するのはどれか。
- 血友病A
 - von Willebrand病
 - 凝固第V因子欠乏症
 - 凝固第VII因子欠乏症
 - 凝固第XIII因子欠乏症
- 23 体内水分量が過剰な低Na血症をきたすのはどれか。
- 下痢
 - 嘔吐
 - 浸透圧利尿
 - 副腎皮質機能不全
 - ADH不適切分泌症候群
- 24 尿路結石の再発予防として不適切なのはどれか。
- 夕食後はすぐに就寝する。
 - 尿pHを6.5～7.0程度に保つ。
 - 1日2,000ml以上の飲水を指導する。
 - 動物性たんぱく質の過剰摂取を避ける。
 - 塩分の過剰摂取を避ける（10g/日以下）。

- 25 閉経期におこる変化で正しいのはどれか。
- 下垂体ゴナドトロピンが上昇するためエストロゲンが低下する。
 - エストロゲンは低下するがプロゲステロンは上昇する。
 - 更年期には無排卵周期となる。
 - 更年期障害と個人の性格の間に関連はない。
 - 閉経すれば更年期障害はおこらない。

- 26 Weber症候群に認められる症状はどれか。2つ選べ。
- 病巣側の動眼神経麻痺
 - 病巣側の顔面神経麻痺
 - 病巣側の縮瞳
 - 病巣側の小脳失調
 - 病巣と対側の片麻痺

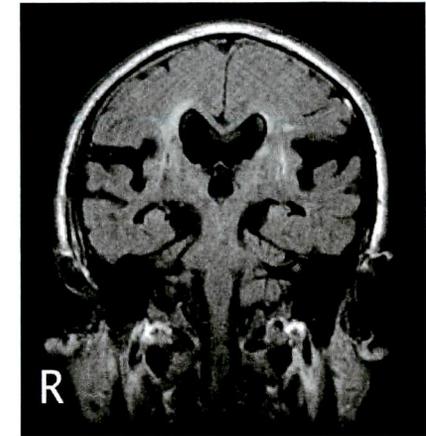
- 27 Creutzfeldt Jakob病の髄液所見について正しいのはどれか。
- プリオン蛋白を認める。
 - 蛋白が増加する。
 - 細胞が増加する。
 - 糖が低下する。
 - 14-3-3 蛋白を認める。

- 28 脊柱側弯症検診において着目すべき点はどれか。
- 漏斗胸
 - 肋骨隆起
 - 腰痛の有無
 - 下肢の変形
 - 麻痺の有無

- 29 先天性股関節脱臼について誤っているのはどれか。2つ選べ。
- 男児に多い。
 - 初産児に多い。
 - 家族内発生が多い。
 - 骨盤位分娩に多い。
 - 軟骨代謝疾患である。

- 30 数か月で進行する歩行障害で受診した患者の頭部MRI FLAIR冠状断画像を示す。
この疾患でみられないのはどれか。

- 尿閉
- 転倒
- 筋固縮
- 記憶障害
- 動作緩慢



頭部MRI FLAIR冠状断画像

- 31 先端巨大症で認められるのはどれか。2つ選べ。
- 手足の容積増大
 - 皮膚色素沈着
 - 輻輳困難
 - 皮膚線条
 - 高血圧
- 32 クッシング病について誤っているのはどれか。2つ選べ。
- クッシング症候群の大半を占める。
 - 副腎腺腫が主因である。
 - デキサメサゾン2 mg抑制試験 (Liddle test) でACTH値は抑制される。
 - ACTH高値である。
 - CRH負荷テストでACTHは増加する。
- 33 McCune-Albright症候群の特徴でないのはどれか。
- 思春期早発
 - 先端巨大症
 - 甲状腺機能低下症
 - café-au-lait spot
 - 多発性線維性骨異形成

34 外来通院中の2型糖尿病患者の体重が増加した。このとき上昇しないのはどれか。

- a ケトン体
- b ブドウ糖
- c 遊離脂肪酸
- d カイロミクロン
- e HDL-コレステロール

35 白血球数が増加するのはどれか。2つ選べ。

- a 強皮症
- b 混合性結合組織病
- c 結節性多発動脈炎
- d 悪性関節リウマチ
- e 全身性エリテマトーデス

36 Raynaud現象と手指の硬化がみられる疾患の診断に有用な検査はどれか。3つ選べ。

- a 抗Sm抗体
- b 抗RNP抗体
- c 抗DNA抗体
- d 抗Scl-70抗体
- e 抗セントロメア抗体

37 *Mycobacterium avium*感染症について誤っているのはどれか。

- a ヒト-ヒト感染はない。
- b 予防内服を行なうことがある。
- c Ziehl-Neelsen染色で赤く染まる。
- d 通常の抗結核薬に対する反応が乏しい。
- e 核酸検査で*Mycobacterium tuberculosis*と鑑別できる。

38 食中毒発生時にヒトからヒトへの二次感染を起こしやすいのはどれか。2つ選べ。

- a ノロウイルス
- b ボツリヌス菌
- c 黄色ブドウ球菌
- d カンピロバクター
- e 腸管出血性大腸菌

39 日本人の喫煙率（20歳以上で）を示している組み合わせはどれか。

- a 男性 64% 女性 6%
- b 男性 39% 女性 30%
- c 男性 39% 女性 11%
- d 男性 26% 女性 21%
- e 男性 33% 女性 21%

40 喫煙により血中濃度が低下する薬物はどれか。

- a アルコール
- b シメチジン
- c テオフィリン
- d バルビツール酸塩
- e ベンゾジアゼピン

41 32歳の初産婦。妊娠34週の健診時、子宮底長38cm、血圧140/90、尿蛋白（±）で超音波断層法を行った。胎児推定体重は2,650g、羊水指数（AFI）は26cmであった。

血液検査で必要な項目はどれか。

- a プロラクチン
- b エストリオール
- c アルファフェトプロテイン
- d ヘモグロビンA_{1c}
- e クレアチニン

42 28歳の女性。実父が急に亡くなり、法事や役所への手続きのために慌ただしい1週間を過ごした。手続きが一段落した直後から、急に上機嫌となり、にこにこ話し続けていることが多くなり、夜中まで掃除や洗濯などをしていて落ち着かなくなった。「眠らなくても全然疲れない」という。買い物に出かけると不要な物をどんどん買ってきてしまい、家族や隣人に配って回る。夫が制止すると「お金なんていくらでもあるわ」と怒鳴るように言い返す。本人の談話については、内容は理解できるものの次々に話題が飛び、しばしば冗談を言って笑う。身体的異常は認めない。

この患者について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 連合弛緩を呈している。
- b 病識はあると考えられる。
- c 治療には炭酸リチウムを用いる。
- d このエピソードの再発率は20%程度である。
- e 同様の状態は身体疾患に起因することはない。

43 3歳8か月の男児。妊娠分娩歴、家族歴上は問題なく、発達も正常であった。妹が生まれて以来、突然まばたきが連続し、首を横に振る動作が目立つようになった。意識消失は認められず、呼吸抑制もない。睡眠中には、症状は認められない。最近では、咳払いや吃音も認められるようになった。

両親への説明として正しいのはどれか。

- a 妹と離れて生活させる。
- b 睡眠導入薬を内服させる。
- c 抱きしめて、一緒に過ごす時間を増やす。
- d 偏食を避けるため、嫌いな食材も食べさせる。
- e 十分に監視して、症状の出現時には指摘する。

44 6か月の乳児。出生直後に小さい赤色斑であったものが徐々に増大した。現在は増大傾向はなく、光沢のある赤い腫瘍部の一部に灰色がかかった部分が斑状に見られるようになっている。

正しいのはどれか。

- a 顔面神経麻痺を伴う。
- b 直ちに切除した方が良い。
- c 頭蓋内の病変が疑われる。
- d レーザー治療の絶対的適応である。
- e 就学時期までに自然消退することが多い。



45 生後6か月の乳児。両側腋窩部の紅色皮疹を指摘され、外用薬を塗布されたが皮疹は増悪し、顔面、頸部、鼠径部に拡大した。健常部皮膚も擦過すると剥離がみられるようになった。頸部の皮疹の写真を示す。

最も適切な治療はどれか。

- a PUVA療法
- b 抗菌薬静注
- c 抗真菌薬外用
- d 免疫抑制薬静注
- e 副腎皮質ステロイド薬経口投与



頸部の皮疹

46 50歳の男性。数年前から頭部、体幹、四肢に厚い銀白色の鱗屑が付着する境界明瞭な類円形の紅斑が多発したため来院した。臨床写真と病変部から採取した生検組織の病理組織H-E染色標本写真を示す。

本疾患に特徴的な組織所見として誤っているのはどれか。

- a 不全角化
- b 顆粒層の消失
- c 表皮突起の棍棒状延長
- d 基底層のメラノサイトの増加
- e 真皮乳頭層の毛細血管の拡張・充血、出血



臨床写真



病理組織H-E染色標本

47 2歳の女児。半年前より、眼が内側によっていることに家族が気づき来院した。視力は両眼ともに0.1 (0.4×+4.0D)。両眼ともに眼球運動制限はなく、交代視は可能であった。前眼部中間透光体、眼底には異常は認めない。調節麻痺薬点眼下の屈折は両眼ともに+6.0D。顔写真を示す。

最初に行う治療はどれか。

- a 近方の注視訓練
- b 完全矯正眼鏡の装用
- c 単眼の内直筋後転術
- d 両眼の内直筋後転術
- e 副交感神経遮断薬の点眼



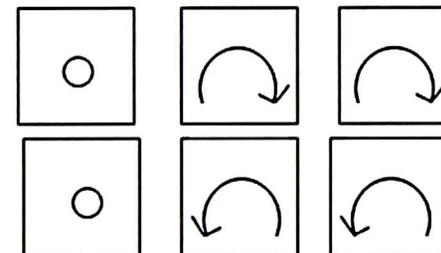
顔写真

48 65歳の男性。昨日の朝起き上がる時に回転性のめまいを自覚した。動かないでいるとめまいは1分程度でおさまるが、少しでも動くと回転性めまいを感じた。めまいがおさまって歩き出すと、ふわふわした浮動感も認めている。また床につくときも回転性のめまいを感じた。

手足のしびれ、舌のもつれなどめまい以外に神経学的異常所見は認められなかった。初診時に認められた眼振を示す。

病変部位はどこか。

- a 球形囊
- b コルチ器
- c 前庭神経
- d 半規管
- e 小 脳



初診時に認められた眼振

49 41歳の女性。2週間前から食事時の左頸部の腫脹と痛みを主訴に受診した。食後30分で左頸部の腫脹が消退するという。

頸部CT画像を示す。



頸部CT画像

治療法はどれか。

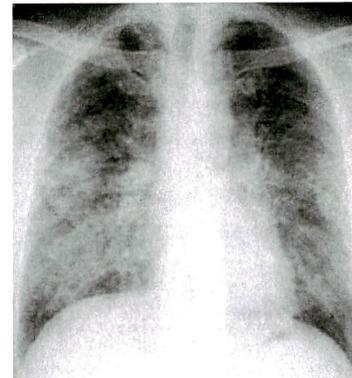
- a 放射線療法
- b 手術的摘出
- c 抗菌薬投与
- d 唾液腺ブジー
- e カルシウム拮抗薬投与

50 18歳の男子。生来健康。発熱および呼吸困難を主訴に来院した。10日前から、発熱と咳嗽を自覚。5日前から呼吸困難を伴うようになり他院を受診。抗菌薬を投与されるも発熱は持続、呼吸困難が増悪している。1か月前から喫煙を開始している。意識清明。体温38.2℃、呼吸数24/分、血圧120/82mmHg。脈拍120/分、整。空気吸入下SpO₂ 85%。両側下肺野背部でfine cracklesを聴取する。血液所見：白血球 11,200（桿状核好中球11%、分葉核好中球68%、好酸球2%、単球2%、リンパ球17%）。CRP 16.4 mg/dl。

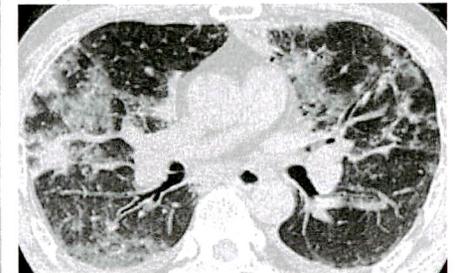
胸部エックス線写真と胸部単純CTを示す。

気管支肺胞洗浄液で増加しているのはどれか。

- a 好酸球
- b 多核白血球
- c Bリンパ球
- d CD4陽性Tリンパ球
- e 肺胞マクロファージ



胸部エックス線写真



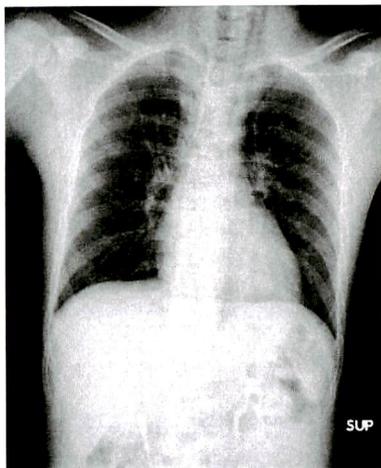
胸部単純CT

51 22歳の男性。14時頃プールで飛び込み、顔面を水面で打撲した。直後には自覚症状はなかったが、16時頃呼吸困難が出現し改善しないために近医を受診した。理学所見で頸部に握雪感を認めたため、精査加療目的で搬送された。経過中に発熱、咳嗽、血痰、胸痛は認めていない。

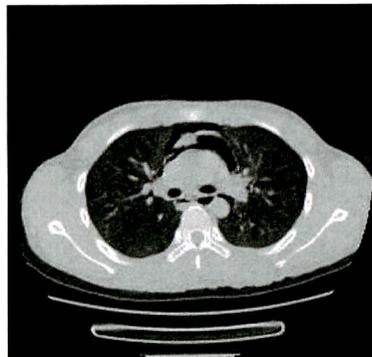
来院時現症では頸部に握雪感を認める以外に異常はなく、検査所見でも問題はない。動脈血ガス分析も正常であった。胸部単純エックス線写真、胸部CTを示す。

診断はどれか。

- a 食道穿孔
- b 気管断裂
- c 心膜気腫
- d 縦隔気腫
- e 腸管穿孔



胸部単純エックス線写真

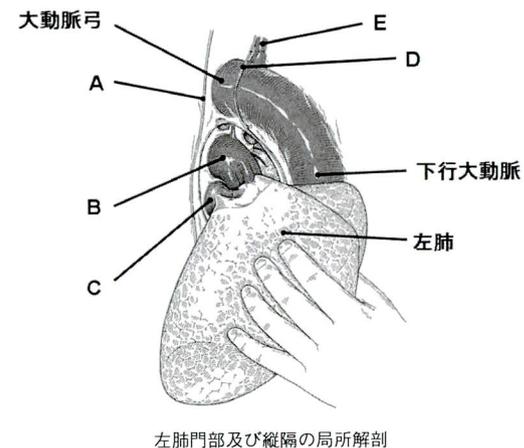


胸部CT

52 左肺門部及び縦隔の局所解剖を示す。

Dの障害による症状はどれか。2つ選べ。

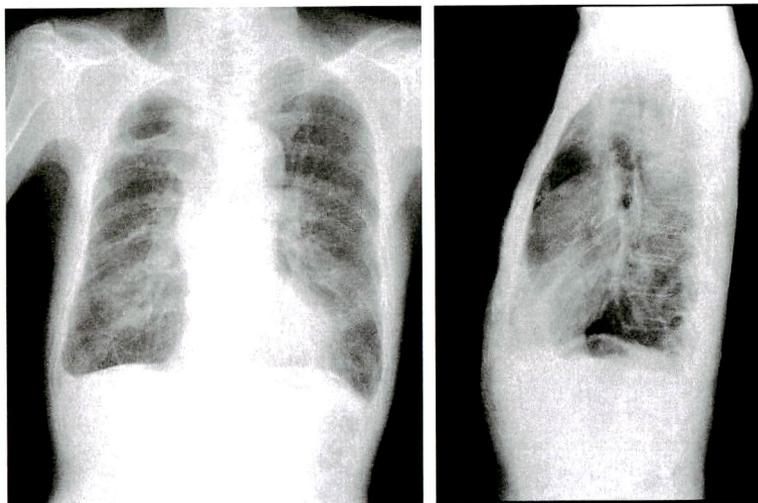
- a 嗝声
- b 不整脈
- c 呼吸困難
- d 発汗異常
- e 上大静脈症候群



53 73歳の男性。3～4年前から、平地歩行時に呼吸困難を自覚し、咳、痰を伴うようになったが放置していた。5日前から発熱、膿性痰が出現し、呼吸困難が増強したため来院した。喫煙歴は20歳から20本/日。来院時、意識清明、体温37.8℃、血圧126/70mmHg、心拍110/分、整。呼吸回数20回/分、胸部では打診上鼓音、呼吸音の減弱と呼気の延長が認められ、両下肢に浮腫を認めた。白血球 13,000/ μ l、CRP 12mg/dl、動脈血ガス分析（空気吸入下）：pH 7.35、PaCO₂ 46 Torr、PaO₂ 53 Torr。胸部エックス線写真を示す。

最初に行う治療として適切でないのはどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 低流量酸素投与
- c 気管支拡張薬投与
- d 副腎皮質ステロイド薬投与
- e 気管挿管下人工呼吸療法

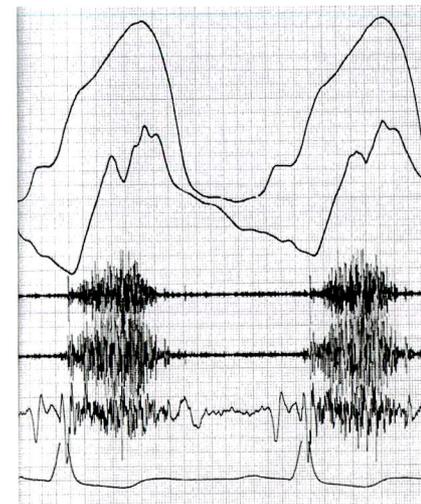


胸部エックス線写真

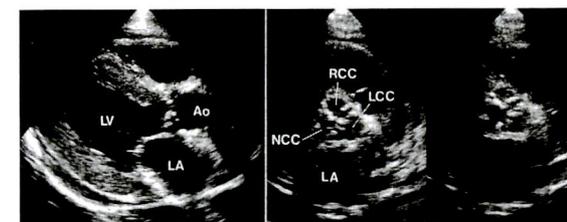
54 53歳の男性。通勤時に駅の階段を昇っていたところ、意識を失い救急車で病院に搬入された。2年前から労作時の息切れと胸部圧迫感を自覚していたが、2～3分の安静で症状が消失するため放置していた。来院時、意識清明。脈拍96/分、整。血圧100/64mmHg。心音図（上から心尖拍動図、頸動脈波、心尖部の高、中、低音心音図および心電図）と心エコー図（長軸像）を示す。

適切な治療はどれか。

- a β 遮断薬の投与
- b 硝酸薬の投与
- c 冠動脈形成術
- d 弁置換術
- e 抗菌薬の投与



心音図（上から心尖拍動図、頸動脈波、心尖部の高、中、低音心音図および心電図）



心エコー図（長軸像）

55 79歳の男性。5年前より糖尿病と高血圧で通院している。約1か月前より、歩行時に右下腿に疼痛を自覚するようになり、連続歩行可能距離が900mにまで短縮した。近くの病院で腹部血管造影CT検査を受けたところ、右総腸骨動脈近位部から約16cm長の完全閉塞が認められた。足関節-上腕動脈血圧比は右0.7、左1.1であった。

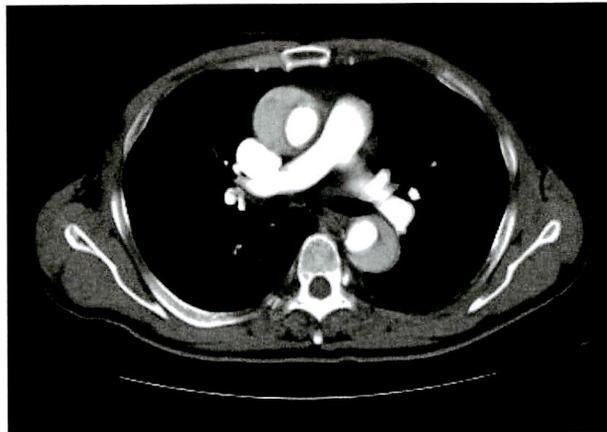
本患者の治療として正しいのはどれか。

- a 抗凝固療法
- b 抗血小板療法
- c バルーン血管形成術 (PTA)
- d 交感神経切断術
- e 血行再建術 (バイパス術)

56 56歳の女性。高血圧の内服治療中であった。突然激しい前胸部痛と背部痛が出現し、持続するため救急車にて救命センターを受診した。来院時、血圧168/92 mmHg、心拍数86/分、整。胸部造影CT検査を示す。CT撮影後、強い胸痛を訴え意識レベル低下と血圧低下 (80/50mmHg) を認めた。

適切な対応はどれか。

- a 昇圧薬の投与
- b 血栓溶解薬の投与
- c IABP
- d 経皮的冠動脈インターベンション
- e 人工血管置換手術

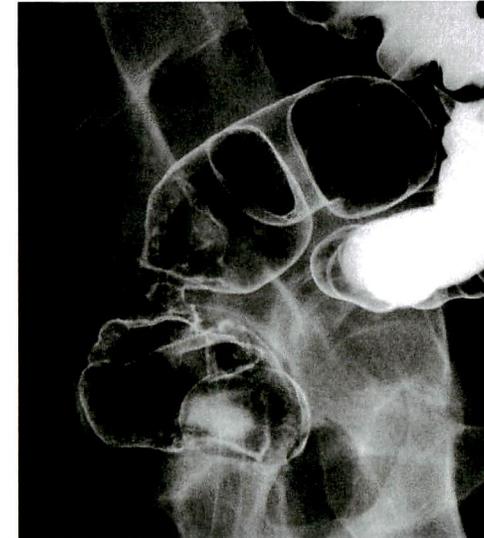


胸部造影CT検査

57 58歳の男性。血便を主訴に来院した。直腸診で固い腫瘤を触知する。直腸の注腸造影写真を示す。

確定診断と進行度診断に必要な検査および適切な治療方法の組合せはどれか。

- a 大腸内視鏡-----胸腹部CT -----手術
- b 大腸内視鏡-----血液検査 -----抗菌薬投与
- c 大腸内視鏡-----小腸造影 -----免疫抑制薬投与
- d ガリウムシンチグラフィ-----胸腹部CT -----手術
- e ガリウムシンチグラフィ-----頭部CT -----化学療法



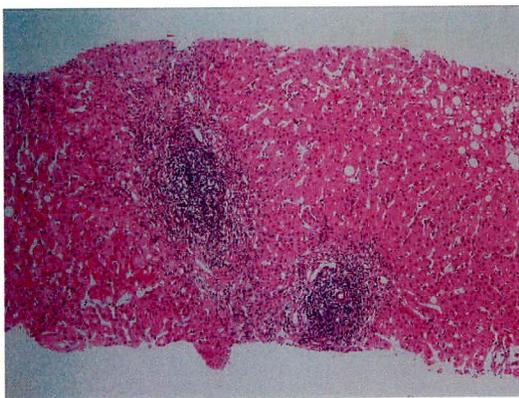
直腸の注腸造影写真

58 75歳の女性。20年前から肝機能障害を指摘され、最近C型慢性肝炎と診断され、インターフェロン療法を希望して来院した。飲酒歴はない。3年前に間質性肺炎の既往がある。現在うつ病と診断されているが服薬治療中で状態は落ち着いている。身長150cm、体重50kg。赤血球300万、ヘモグロビン 9.4 g/dl、白血球3,000、血小板12万。血清生化学：総ビリルビン1.0 mg/dl、AST 30単位、ALT 45単位、 γ -GTP 50単位、HAV抗体陽性、HBs抗原陰性、HCV抗体陽性、血中のHCV-RNA量は低値でありC型肝炎ウイルスのセロタイプはグループ2である。

肝生検所見を示す。

この患者のC型慢性肝炎に対する診療方針として正しいのはどれか。

- a 瀉血による鉄除去
- b 入院のうえベッド上安静
- c 副腎皮質ステロイドホルモン投与
- d 定期的な採血と超音波検査による経過観察
- e ペグインターフェロンとリバビリンの併用療法



肝生検所見

59 7歳の女児。意識障害にて救急車で搬送されてきた。呼びかけには答えるが朦朧としている。数週間前より全身倦怠感と微熱があったという。皮膚と眼球結膜に黄染が見られ、肝を3横指触れる。ALT 850 IU/l、AST 1,580 IU/l、LDH 1,360 IU/l (基準115~359)、直接ビリルビン8.6 mg/dl。

有用な検査はどれか。2つ選べ。

- a 胆汁酸
- b アンモニア
- c ヒアルロン酸
- d 間接ビリルビン値
- e プロトロンビン時間

60 56歳の女性。3週間前からの腹部膨満を主訴に来院した。腹部は膨隆し、圧痛は認めない。腹部超音波検査で腹水様所見があり、穿刺でゼリー状の液を吸引した。

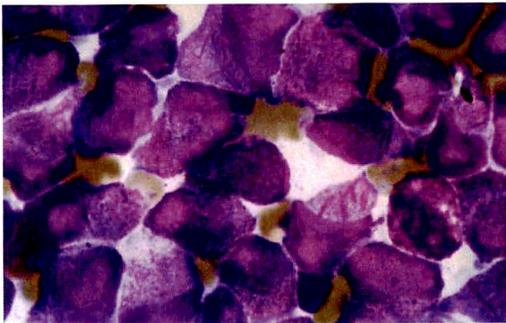
この患者で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 治療として手術を行う。
- b 組織学的悪性度が高い。
- c 腹部CT検査は有用ではない。
- d 消化管の通過障害はきたさない。
- e 虫垂や卵巣が原発臓器として考えられる。

61 38歳の男性。鼻出血を主訴に来院した。口腔粘膜の出血と四肢に紫斑を多数認める。白血球 12,000、赤血球 369万、Hb 10.9 g/dl、血小板1.5万、プロトロンビン時間 (PT) 16 秒 (基準9-13)、活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) 70 秒 (基準25-45)、フィブリノゲン100 mg/dl (基準150-400)、FDP 60 $\mu\text{g}/\text{ml}$ (基準10 以下)。骨髓検査を行ったところ、写真に示すような細胞が多数認められた。

この疾患について適切なのはどれか。2つ選べ。

- a t (15;17) の染色体異常をもつ。
- b 血清リゾチームが高値である。
- c 急性骨髄球性白血病の中で予後が悪い。
- d BCR-ABL融合遺伝子が形成されている。
- e 再発・難治症例には亜ヒ酸も使用する。

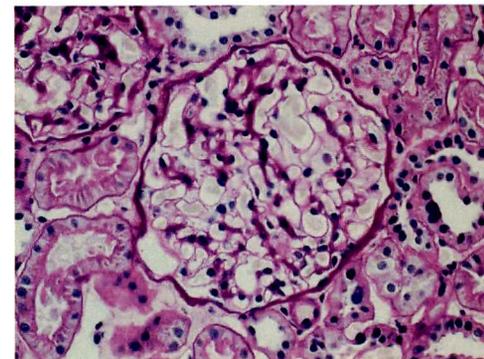


写真

62 19歳の男性。生来健康。浮腫と尿量減少を訴えて来院。1週間前より浮腫が出現し、体重が約8kg増加した。意識清明、身長170cm、体重72kg、体温36.8℃、脈拍102/分、整、血圧98/56 mmHg。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦・軟。四肢に浮腫著明。尿検査：蛋白(4+)、糖(-)、潜血(-)。血液生化学所見：総蛋白5.1g/dl、Alb 2.2g/dl、尿素窒素20mg/dl、クレアチニン0.6 mg/dl、尿酸5.4 mg/dl、CRP 0.03 mg/dl、IgG 543 mg/dl。腎生検光顕、PAS染色所見を示す(400倍)。蛍光抗体法ではIgG、IgA、IgM、C3、C4は陰性。

みられるのはどれか。

- a 喉頭浮腫
- b 脂肪肝
- c 深部静脈血栓症
- d 脳出血
- e 肺線維症



PAS染色所見

63 45歳の女性。3回正常分娩の既往がある。最近、排尿障害と軽度の尿失禁を自覚し来院した。排尿回数は1日平均5回である。下着が汚れるのでパッドを1日1枚使用している。尿検査は正常で尿路感染症はない。尿路造影立位で膀胱底が恥骨上縁より3cm下降している。(図)

診断と治療の正しい組み合わせはどれか。

- a 切迫性尿失禁-----抗コリン薬の投与
- b 奇異性尿失禁-----尿道拡張術
- c 子宮脱-----単径ヘルニア手術
- d 腹圧性尿失禁-----骨盤底筋体操
- e 過活動膀胱-----α1アドレナリンブロッカー



図

64 50歳の女性。4～5年前より月経量が多くなり最近月経の期間も延長し月経痛も出現したため来院した。腔分泌液は粘液白色調で、子宮頸部、腔内に異常を認めない。診察上腹腔内に固い腫瘤を認めた。骨盤におけるMRI T2強調写真を示す。

この疾患において正しいのはどれか。

- a 50歳以降の女性に多い。
- b プロラクチン依存性に増殖する。
- c 多発性は30%程度である。
- d 診断には頸部細胞診検査が優れている。
- e 治療にはGnRHアゴニストを用いる。



骨盤におけるMRI T2強調写真

65 23歳の女性。半年間月経がなく受診した。体重が1年間で約10kg減少した。内診上は特に異常所見はない。

無月経の検査・診断として誤っているのはどれか。

- a 機能的原因が考えられる。
- b プロゲステロン試験を行う。
- c 副腎・甲状腺機能の検索を行う。
- d ゴナドトロピン分泌値の高い症例は中枢性無月経である。
- e 機能的原因の場合は排卵誘発を含むホルモン療法を行う。

66 52歳の女性。50歳ごろから月経が不順となり、閉経した。その後、のぼせ、著明な発汗が出現。少しのことで不安になり、イライラするようになった。本人は「更年期のせいだから」と様子をみていたが、症状は改善せず、イライラしたことで夫に八つ当たりをしては自己嫌悪に陥ったりしていた。最近では気分の落ち込みや、「他にも何か悪い病気があるのではないか」などと盛んに思うようになっている。

適切な治療はどれか。2つ選べ。

- a 抗うつ薬
- b 抗不安薬
- c 向精神薬
- d 精神刺激薬
- e 甲状腺ホルモン薬

67 19歳の男性。4か月前より多飲多尿が、1か月前より頭重感と上方注視障害が出現した。血液学検査所見：赤血球330万、Hb8.9g/dl、Ht24%、白血球7,200、血小板18万。生化学検査所見：Na 125mEq/l、K 4.5 mEq/l、Cl 98 mEq/l、hCG-β: 0.1mIU/ml (基準0.1以下)、AFP: 3ng/ml (基準0-10)。頭部MRI造影後T1強調像(矢状断)を示す。

考えられる診断はどれか。

- a 髄膜腫
- b 胚細胞腫瘍
- c 頭蓋咽頭腫
- d 下垂体腺腫
- e 転移性脳腫瘍



頭部MRI造影後T1強調像(矢状断)

68 4か月の乳児。体が柔らかいことを主訴に受診した。母親は、妊娠中から児の胎動が少ないことを自覚していた。哺乳力が低下し、啼泣が弱く定額は認めない。あやすとよく笑う。血液検査で血清CPK 38 単位(基準10~40)であった。遺伝子検索の結果、5q13.1の領域に存在する survival motor neuron (SMN) 遺伝子、neuronal apoptosis inhibitory protein (NAIP) 遺伝子の異常を確認した。

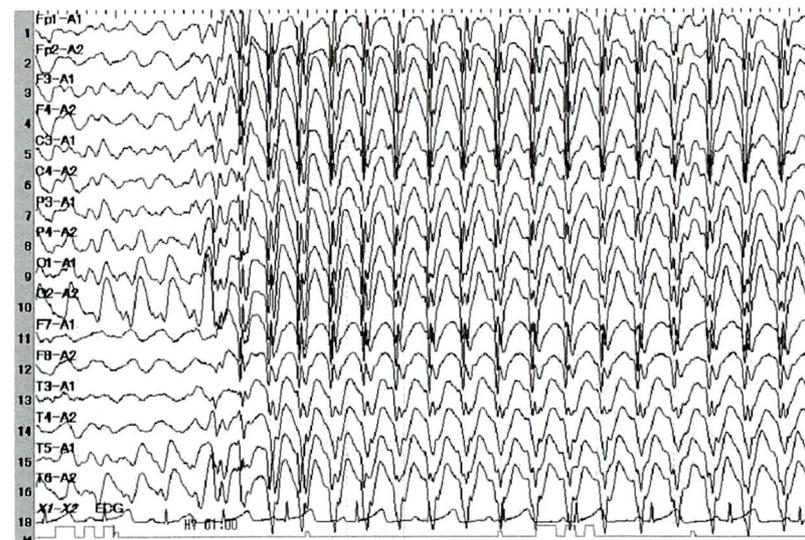
同時期に、この児に見られるのはどれか。

- a 間接拘縮
- b 知覚障害
- c 舌の筋束性攣縮
- d 深部腱反射亢進
- e 遠位筋優位の筋力低下

69 6歳8か月の男児。突然の意識消失を主訴に受診した。4か月前頃より突然ほんやりとして呼びかけに反応がないことがあり、徐々にその頻度が増えてきた。妊娠分娩歴、家族歴上は問題なく、現在までの知的発達は良好であった。自然睡眠時脳波所見を示す。

初期治療として正しいのはどれか。

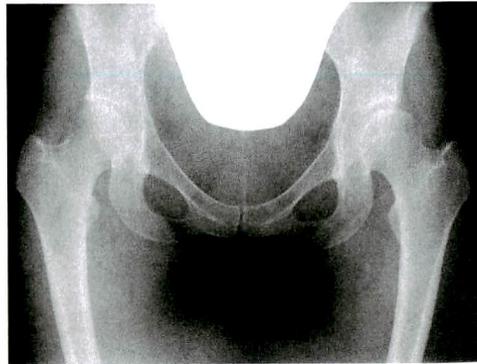
- a 経過観察
- b ACTH筋肉内投与
- c ビタミンB6大量療法
- d アセトアミノフェン内服
- e バルプロ酸ナトリウム内服



自然睡眠時脳波所見

70 38歳の女性。左股関節の痛みを主訴に来院した。股関節エックス線写真を示す。
治療法として誤っているのはどれか。

- a 体重のコントロール
- b 人工股関節全置換術
- c 骨切り術
- d 杖の使用
- e 運動療法



股関節エックス線写真

71 42歳の女性。生来健康であった。
2か月前から食事とは関係なく、突然意識消失発作がある。月経周期は正常である。
身長165cm、体重43kg。血圧120/76 mmHg、脈拍76回/分。貧血はなく、胸腹部に異常所見なし。
診察中に意識が混濁し、床に倒れた。
意識消失発作以外には、片麻痺などの神経学的異常所見はない。
血糖値は30mg/dℓであった。

この患者の下垂体ホルモンで低値を示すのはどれか。

- a 成長ホルモン
- b プロラクチン
- c ゴナドトロピン
- d 甲状腺刺激ホルモン
- e 副腎皮質刺激ホルモン

72 21歳の女性。大学生。試験やクラブの合宿前になると腹痛、嘔吐、血尿が出現するため、精査を希望して来院した。成績は中の上。月経周期は規則的である。身長168 cm、体重50 kg。血圧114/66mmHg、脈拍72/分、不整脈なし。

黄疸なし。下肢の浮腫なし。下肢の腱反射が減弱している。安静時振戦なし。WBC 6,800、RBC 400万、Plt 13万、AST 44 IU/ℓ、ALT 40 IU/ℓ、CK 64 IU/ℓ (基準44~170)、BUN 14 mg/dℓ、Cr 0.7 mg/dℓ、Na 138 mEq/ℓ、K 3.8 mEq/ℓ、Cl 100 mEq/ℓ、CRP 0.03mg/dℓ>。

腹部超音波所見に特記すべきものなし。

この疾患で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 尿中アミノレブリン酸の上昇を認める。
- b 常染色体優性遺伝である。
- c 精神症状は伴わない。
- d 予後は良好である。
- e 光線過敏症がある。

73 10歳の女兒。肥満を主訴に来院した。9歳の頃から身長は伸びないのに体重増加が著しい。学業成績は普通である。身長130cm、体重63kg。血圧130/84mmHg。下腹部に皮膚線条を認める。

診断に最も有用なのはどれか。

- a TRH負荷試験
- b LHRH負荷試験
- c アルギニン負荷試験
- d 経口ブドウ糖負荷試験
- e デキサメサゾン抑制試験

74 45歳の女性。乳癌検診のマンモグラフィで異常を指摘され来院した。自覚症状はない。乳房の触診と超音波では異常を認めない。マンモグラムとその拡大写真を示す。

正しいのはどれか。

- a カテゴリー分類は3である。
- b 石灰化の分布は区域性である。
- c 石灰化の性状は微細円形である。
- d マンモトーム生検の適応である。
- e 提示したマンモグラフィはC-C viewである。



マンモグラム

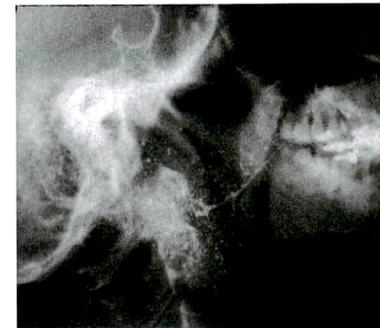


マンモグラムの拡大写真

75 34歳の女性。2年前から眼球乾燥感、眼痛を自覚するようになった。2か月前から全身の関節痛、口内乾燥感、微熱が出現し、耳下腺の腫脹を繰り返したため来院した。手指関節の圧痛、腫脹は認めるが変形はない。両側耳下腺、顎下腺の腫脹を認める。耳下腺造影を示す。

本症に合併しやすいのはどれか。3つ選べ。

- a 精巣上体炎
- b 慢性甲状腺炎
- c 逆流性食道炎
- d 原発性胆汁性肝硬変
- e 尿細管アシドーシス



耳下腺造影

76 32歳の女性。保健所でHIV検査の採血を担当している。
現病歴：本日、29歳の男性の採決時に、誤って自分の指尖部に針を刺してしまった。
既往歴：特記すべきことはない。
29歳の男性はHIV抗体陽性であった。

今後の対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 心のケアの専門家に紹介する。
- b 妊娠していれば中絶をすすめる。
- c 公務災害の申請は感染の成立後に行う。
- d エイズ患者と同じプロトコルで抗HIV薬の投与を行う。
- e 感染非成立が確認できるまで定期的に抗HIV抗体の検査を行う。

77 27歳の男性。尿道分泌物と尿道不快感を主訴に来院した。2週前に異性との性交渉があった。数日前より漿液性の分泌物、軽度の尿道不快感を認めた。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(±)、沈渣 赤血球0-1/1視野、白血球10-30/1視野。

起炎菌として最も考えられるのはどれか。

- a 淋菌
- b 腸球菌
- c 大腸菌
- d ブドウ球菌
- e クラミジア

78 67歳の男性。下痢を主訴に来院した。脳梗塞後遺症のため2年前から自宅で寝たきりの状態であった。10日前に気管支炎を併発し、抗菌薬による治療を受けている。4日前から頻回の下痢が出現し、止痢薬を服用するも改善しなかった。意識は清明。体温37.5℃。脈拍96/分。血圧134/80mmHg。口腔粘膜は乾燥し、腹部所見で下腹部に軽度の圧痛を認めた。血液所見：赤血球450万、Hb 14.2 g/dl、Ht 49%、白血球数12,800。血液生化学所見：総蛋白7.0g/dl、AST 26 IU/l、ALT 30 IU/l、尿素窒素30mg/dl、クレアチニン1.4mg/dl、Na130mEq/l、K 3.2mEq/l、Cl 94mEq/l。免疫学的所見：CRP 2.3mg/dl、CEA 2.7ng/ml（基準5以下）。下部消化管内視鏡写真を示す。

まず投与すべき薬剤はどれか。

- a 抗真菌薬
- b 免疫抑制薬
- c 塩酸バンコマイシン
- d 副腎皮質ステロイド
- e 5-アミノサリチル酸製剤



下部消化管内視鏡写真

79 ブドウ球菌食中毒が疑われた場合の対応として誤っているのはどれか。

- a 摂取した食品を聞く。
- b 食前の加熱によって予防する。
- c 家族に発症者がいないかを聞く。
- d 直ちに最寄りの保健所長に届け出る。
- e 調理者の手指に化膿巣がないかを調べる。

80 40歳の男性。3年前より連続飲酒がみられている。ここ1か月もほぼ連続的に飲酒しており、生活も乱れている。ここ2、3日は歩行にも支障をきたし、物も2重にみえると訴えた。

直ちに必要なのはどれか。

- a チアミン
- b ジアゼパム
- c シアナマイド
- d ジスルフィラム
- e クロロプロマジン